

子供たちの夢をかなえる教師への道

東京教師養成塾通信

【第21期 第6号】



発行日 令和6年7月5日
発行元 東京都教職員研修センター 研修部教育開発課
電話 03-5802-0318



第22期募集案内



塾通信バックナンバー

第9回講座では第10回講座での模擬授業の実施に向け、授業づくりについて学んだ後、班で学習指導案の作成を行いました。同じ志をもつ仲間と一つの授業をつくり上げる楽しさと難しさを実感しながら、協働することのよさを感じていました。

教科等指導力養成講座（第9回）

実施日 令和6年6月22日（土）

【両コース共通】

■ 学習指導案作成

【小学校コース】

■ 生活 ■ 授業づくりの基本2

【特別支援学校コース】

■ 学校生活支援シート

■ 単元指導計画

本講座は入塾希望者への
講座体験会も兼ねて
実施しました。



塾生同士で学習指導案を検討している様子



生活



楽しいと感じる体験の場をつくっていききたい

小学校コースは、児童の「気付きの質」を高める教師の手だてについて考えました。事前課題動画を視聴し、考えたことについて「ギャラリートーク」の手法を用いて考えを共有しました。

【塾生の声】

- ・ 気付きの質を高める工夫として、実生活での体験、児童が気付けるように先生方への声掛けや興味・関心を促す工夫が重要だと考えた。
- ・ 気付きの質を高めることは、児童は自分ごととして捉えたり考えたりすることができるために大切だと分かった。児童の気付きを促すために、ゴールを決めて見通しを持って取り組ませたり、インタビューさせたりするとよいと感じた。
- ・ 気付きの自覚や自分自身への気付きを通して、「やってみたい」という気持ちが出てくるのだと思った。生活は体験するところから始まるため、楽しいと感じられる体験の場をつくっていききたい。

目指す児童の姿を明確にして

特別支援学校コースは、同じ障害種別の学級で実習を行っている塾生同士で集まり、「国語・算数」の単元指導計画について考えました。

目指す児童の姿や評価規準など、多岐に渡る項目について、各自が事前に考えてから講座に臨むことで円滑に意見交換を行うことができました。午後はこの計画を基に、本時案を考えました。



単元指導計画

活発に意見交換を行う様子



楽しい雰囲気の中で学びを深めていた

第23期以降の入塾に向けて講座体験会を実施しました。参加者は柔らかい雰囲気の中、意見交換を活発に行う塾生の様子を見て、養成塾に対する印象が変わったようでした。

【体験者の声】

・ 講座を体験する前は講義の時間が長く大変なのではないかと考えていたが、塾生同士の意見交換が活発に行われ、楽しい雰囲気の中で学びを深めている様子が印象的だった。

本人や保護者の願いを第一に

特別支援学校コースは、保護者や子供の思いを踏まえて、関係機関と連携するための計画である学校生活支援シートについて学びました。

【塾生の声】

・ 保護者や関係機関と連携し、指導の方針の計画を立てていく際には本人や保護者の願いを第一に合意形成を図ることが重要であると改めて学んだ。



学校生活支援シート

授業づくりの基本2



導入の大切さを学んだ

小学校コースは、明星大学特任教授 相原雄三先生から、児童の問題意識を大切にして、児童主体の授業を展開するための具体的な手だてについて学びました。

【塾生の声】

・ 導入の大切さを学んだ。導入で引き付け、児童の疑問を持たせることで、児童に学習課題に積極的に取り組ませることがができる。また、児童が興味を持つために資料提示の仕方を工夫することの大切さを学んだ。

児童に寄り添った授業をつくることができた

これまでの講座や指定校での授業実践の学びを生かし、第10回講座の模擬授業実施に向けて、学習指導案を作成しました。どの塾生も活発に意見を交換する中で、学びを深めていました。

【塾生の声】

- ・ 学生同士で授業をつくることで、様々な方向から意見を聞くことができた。自分が実際に実施した授業と比べ、児童に寄り添った授業をつくることができた。教師になってからも、教員同士で話し合いをして授業を作っていきたい。
- ・ 学習指導案について検討したり修正したりする過程を通して、筋の通った学習過程をつくる難しさを実感した。また授業には多様な形式があることを実感して、授業づくりの理解を深めることができた。前日に道徳の授業実践を行っていたこともあり、道徳の授業づくりについて少しずつ理解を深められてきたようにも感じた。

学習指導案作成

